

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北九州市立尾倉中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒805-0059 北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
E-mail ogura-j@kita9.ed.jp
Website _____

幼児児童生徒数 男子 94名 女子 80名 合計 174名
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、環境教育、国際理解教育、人権・平和教育、防災教育、キャリア教育などに関連させながら学ぶなかで、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身につけることを目標とした。

具体的には、環境教育を柱に、①リサイクル活動に係わる活動、②地域の環境整備に係わる教育、③国際理解に係わる学習 ④キャリア教育に係わる学習を行った。

① リサイクル活動に係わる活動

事例1：全学年 総合的な学習(環境)・道徳の時間(国際理解)

「届けよう服のチカラプロジェクト」

数年ユネスコスクールとして取り組んできたリサイクル活動が一部の生徒によるものになりつつあったため、全校生徒で「服のチカラプロジェクト」に取組み、改めて自分たちの活動の重要性を認識できることを目的とした。まず生徒会執行部と各クラス代表が7月20日にユニクロの方による出前授業を受けた。その後、出前授業を受けた生徒が授業者となり、9月に「4—(10)国際理解」として各クラスで道徳の授業を行い、その中でこの取組の趣旨や方法について説明し、プロジェクトがスタートした。皿倉小学校、尾倉市民センター、尾倉幼稚園にも協力を依頼、文化活動発表会では、1学年が「環境問題に関する調べ学習」についてプレゼン発表し、また生徒会執行部が本プロジェクトの趣旨説明をプレゼンすることで、再度保護者への協力を依頼した。かなり多くの子供服を集めることができ、11月に発送した。1月にユニクロからフォトレポートが届き掲示物等で振り返り学習を行った。

② 地域の環境整備に係わる学習

(1) 地域清掃

地域清掃を年2回計画した。6月は悪天候により中止となったが、11月は尾倉まちづくり協議会の会長に協力を依頼し、自治区会の地域の方が30名程度協力して下さった。作業する中で生徒たちにあたたく声をかけてくださり、楽しい交流の時間をもつことができた。

(2) 尾倉のまちに花を届けよう(花植え)

2月23日(金)に有志で集まった生徒と、コーディネーターが集めてくださった地域のボランティア15名と一緒に「花植え」をし、尾倉市民センター、尾倉幼稚園、西本町児童館に花を届けた。花植えに不慣れな生徒たちは地域の方々にアドバイスをいただきながら楽しく活動できた。また尾倉幼稚園へ届けた際には全園児から感謝の言葉をいただき、携わった生徒たちには明るい笑顔がこぼれ、心温まる取組となった。

③ 国際理解に係わる学習

全学年 総合的な学習の時間(国際理解)「JICA国際協力出前講座」12月1日(金)5・6校時実施 九州海外協力協会の講師による出前授業を通して、国際社会で生きていく生徒たちの能力を高め、見識を広げる国際理解の場とすることを目的とした。3年生はワークショップ形式で「貿易ゲーム」を行い、国と国の関係を体験した。生徒たちは5～6人の班に分かれ一つの国として自分の国が真に豊かになるためには、食料・住居・水・医療・教育・軍のどれを確保するか話し合いながら貿易を行った。このゲームを通して自分の国なく、他国も共に栄えることや、他国に援助する大切さを学んだ。

④ キャリア教育に係わる学習

キャリア教育の一環として2年生が職場体験学習を行った。まず6月に「ゲストティーチャー」として保育士、理容師、消防士など様々な職種の方に来ていただき、職業についての授業をしていただいた。2学期に2日間、25箇所程度の事業所に分かれ職場体験学習を行った。



① 尾倉市民センターに協力依頼



② 地域ボランティアと共に清掃



③ 貿易ゲーム



④ 職場体験学習

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|--|---|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|----------|
| 特にありません。 |
|----------|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

②ESD の視点に立って重視する能力・態度について主に道德の時間、各教科、総合的な学習の時間、学校行事等全ての教育課程の中に位置づけている。

【多面的、総合的に考える力】

人権教育・平和教育・国際理解教育を通して、人・もの・社会・自然などのつながり・かかわり、ひろがりを学び、それらを多面的・総合的に考える力。

【他者と協力する態度】

校内、地域にとどまらず、世界に目を向け、他者の立場に立ち、その考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協働して物事を進めようとする態度。

【つながりを尊重する態度】

人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し 大切にしようとする態度。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

〈 ユネスコスクール推進委員会 〉の設置

・本年度の重点目標の決定、ESDの観点を意識したカリキュラム編成（ESDカレンダー）

・本年度取組予定の活動（学校行事等）とESDの視点に立った学習指導の関連づけ ・ESD啓発のためのスローガン募集と決定「世界に笑顔を尾倉から～HAPPY SCHOOL LIFE～」

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

・ユネスコスクール推進委員会の年間反省会議により、今年度の活動についての評価を行った。今年度は、とにかく生徒にも、職員にも、「自分の学校はユネスコスクールである」という自覚をもってほしいということからスタートした。スローガンも生徒全員から募集し、生徒が考えたキャラクターを使用したバッチや横断幕を作成するなど、様々な形で啓発活動を継続することで、生徒たちに「ユネスコスクール」としても自覚と誇りが芽生えてきた。リサイクル活動への協力等も増えてきており、社会や世界へ目を向けて考える機会が増えた。

① 課題

総合的な学習の時間や道德の時間だけでなく、さらに教科等、教育活動全体を通してESDの視点から指導していけるようなカリキュラムを編成し、計画的に進めていく必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・小学校や市民センター、近隣の幼稚園も本校から発信したリサイクル活動に積極的に参加してくれることとなり、大きな成果を上げることが出来た。このようにユネスコスクールとして、地域と連携した活動が増えたことで生徒たちの中にも自分たちが地域の一員であるという自覚が持てる機会となった。

・生徒会が作成したポスターの掲示（市民センター、小学校、近隣の公共施設）

・文化活動発表会にて環境に関する調べ学習について発表し、協力を依頼した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・毎年 JICA 九州に協力していただき、出前事業を実施している。これに関しては今後も国際理解教育の学習活動として取り組んでいきたい。

・4月21日に RCE トンヨン市民教育グループ 8 名の方が韓国から本校に視察に来られ、生徒会執行部の生徒と、お互いの国の文化等について話し合い、相互交流を行った。今後もこのような訪問視察の受け入れを積極的に行っていきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

・今年度は特に活動としては取り組んでいなかったため、今後考えていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

・本年度は生徒、職員全員に本校が「ユネスコスクール」であるという自覚を持たせ、各自がESDを推進する取組や行動が出来るようにすることを目標とした。スローガンと公式キャラクター（ゆねっぴい）を決め、バッチや横断幕を作成し、地域にもアピールした。また自分たちの取組を知ってもらうためにプレゼンを作成し、発表する機会もふえコミュニケーション能力の育成にも大きな効果を上げることが出来た。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 〈ユネスコスクール推進実行委員会〉
- ・ ESDカレンダーの作成。
 - ・ 年間指導計画（教育課程）の決定
 - ・ 年間を通しての定例会議の実施
- 〈環境教育〉
- ・ 地域と連携したリサイクル活動（ペットボトルキャップ）
 - ・ 牛乳パックリサイクル（北九州市教育委員会）
 - ・ 地域清掃、花植え活動など地域の環境整備
- 〈キャリア教育〉
- ・ 職業調べ、職業についての後援会
 - ・ 職場体験学習
- 〈国際理解教育〉
- ・ JICA九州による出前授業
（貿易ゲーム・世界がもし100人の村だったら）
- 〈防災教育〉
- ・ 避難訓練、スクール救命士講習会
 - ・ 学校防災アドバイザーによる講演会